

持病のある人が新型コロナウイルス感染症に弱いことはご存じだと思います。中国の報告でも、感染者の死亡率は心血管疾患10・5%、糖尿病7・3%、慢性呼吸器疾患6・3%、高血圧6・0%、がん5・6%とされています。がんは他の病気と比べて、とくにコロナ感染で致死的になりやすいわけではありませんが、がん治療には大きな影響が出ています。

世界保健機関（WHO）は1日、このウイルスの感染拡大による医療への影響を発表しました。7割超の国が、新型コロナウイルス感染症の広がりで、他の病気の治療が影響を受けたと報告し、がん治療に影響があったと答えた国

## がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

# コロナ感染治療に影響大きく

が42%に上りました。

がん患者や医療者など582人に対する国内の調査でも、約2割の人が「がん治療や手術において、新型コロナウイルスの影響を受けている」と回答

しています。さらに6割近くの人が、「影響を懸念している」と答えています。がん治療の延期や中止の理由には、安全に治療できないほか、がん治療による感染と重症化リ

に化学療法を受けた患者では、新型コロナウイルスによる死亡リスクが有意に高くなったことが分かりました。400人中死亡したのは約140人で、その約8割が新

型コロナウイルス感染症で亡くなりました。がんの進行に伴う死亡は1割程度でした。死亡者のうち、化学療法を受けていたのは約半数の47%でしたが、放射線治療を受けていたのは9%にすぎませんでした。

がんの治療法により、新型コロナウイルスによる死亡リスクが左右されることが分かりました。新型コロナウイルスのリスクを加味した総合的な判断が求められるといえるでしょう。

ただ、治療法の変更や延期は、これまでの経過や病状をよく知る主治医にしかできません。患者個人の独断は避け、よく相談していただきたいと思ひます。

（東京大病院准教授）